

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和2年5月21日(2020.5.21)

【公開番号】特開2019-14800(P2019-14800A)

【公開日】平成31年1月31日(2019.1.31)

【年通号数】公開・登録公報2019-004

【出願番号】特願2017-132145(P2017-132145)

【国際特許分類】

C 08 L 83/07 (2006.01)

C 08 L 83/05 (2006.01)

C 09 J 183/07 (2006.01)

C 09 J 11/02 (2006.01)

C 09 J 183/05 (2006.01)

【F I】

C 08 L 83/07

C 08 L 83/05

C 09 J 183/07

C 09 J 11/02

C 09 J 183/05

【手続補正書】

【提出日】令和2年4月6日(2020.4.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

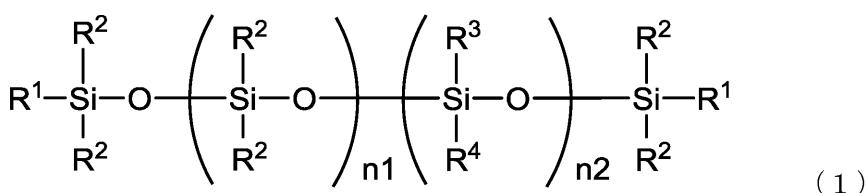
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(A) 式(1)：

【化14】



(式中、

R<sup>1</sup>は、独立して、C<sub>2</sub> - C<sub>6</sub>アルケニル基であり、

R<sup>2</sup>は、独立して、C<sub>1</sub> - C<sub>6</sub>アルキル基であり、

R<sup>3</sup>は、独立して、C<sub>6</sub> - C<sub>20</sub>アリール基であり、

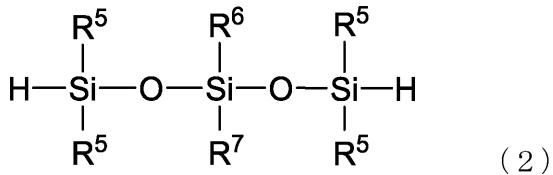
R<sup>4</sup>は、独立して、C<sub>6</sub> - C<sub>20</sub>アリール基又はC<sub>1</sub> - C<sub>6</sub>アルキル基であり、

n1は、2 ~ 1500であり、

n2は、0 ~ 1000である)で示される、直鎖状ポリオルガノシロキサン；

(B) 式(2)：

## 【化15】



(式中、

$\text{R}^5$  は、独立して、 $\text{C}_1 - \text{C}_6$  アルキル基であり、

$\text{R}^6$  は、独立して、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$  アリール基であり、

$\text{R}^7$  は、独立して、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$  アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$  アルキル基である)で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジェンシロキサン;

(B2)一分子中に、ケイ素原子に結合した水素原子を3個以上有する、ポリオルガノハイドロジェンシロキサン;

並びに

(C)白金系触媒;

を含み、

$(\text{H}_{\text{B}1} + \text{H}_{\text{B}2}) / \text{Vi}_A$  が $0.4 \sim 2.5$  であり、ここで、 $\text{Vi}_A$  は、(A)のアルケニル基のモル数であり、 $\text{H}_{\text{B}1}$  は、(B1)のケイ素原子に結合した水素原子のモル数であり、 $\text{H}_{\text{B}2}$  は、(B2)のケイ素原子に結合した水素原子のモル数である、硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

## 【請求項2】

(B2)が、 $\text{SiO}_{4/2}$  単位及び $\text{R}^8\text{SiO}_{3/2}$  単位(式中、 $\text{R}^8$  は、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$  アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$  アルキル基である)からなる群より選択される1以上の単位と、 $\text{H}(\text{R}^9)_{2}\text{SiO}_{1/2}$  単位(式中、 $\text{R}^9$  は、 $\text{C}_6 - \text{C}_{20}$  アリール基又は $\text{C}_1 - \text{C}_6$  アルキル基である)とからなる、ポリオルガノハイドロジェンシロキサンである、請求項1に記載の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

## 【請求項3】

$\text{H}_{\text{B}1} / (\text{H}_{\text{B}1} + \text{H}_{\text{B}2})$  が $0.1 \sim 0.98$  である、請求項1又は2に記載の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

## 【請求項4】

画像表示装置の画像表示部を有する基部と透光性の保護部との接着用である、請求項1～3のいずれか1項記載の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

## 【請求項5】

請求項1～4のいずれか1項記載の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物を用いて、画像表示装置の画像表示部を有する基部と透光性の保護部とを接着した画像表示装置。

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

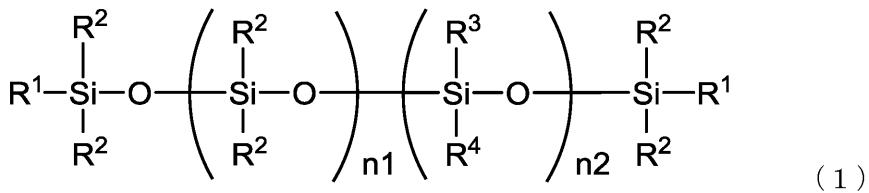
【補正の内容】

## 【0008】

本発明は、以下の構成を有する。

[1] (A)式(1)：

## 【化1】



(式中、

$\text{R}^1$ は、独立して、C<sub>2</sub> - C<sub>6</sub>アルケニル基であり、

$\text{R}^2$ は、独立して、C<sub>1</sub> - C<sub>6</sub>アルキル基であり、

$\text{R}^3$ は、独立して、C<sub>6</sub> - C<sub>20</sub>アリール基であり、

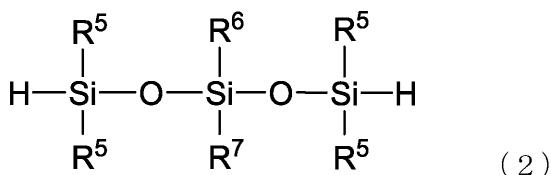
$\text{R}^4$ は、独立して、C<sub>6</sub> - C<sub>20</sub>アリール基又はC<sub>1</sub> - C<sub>6</sub>アルキル基であり、

$n_1$ は、2 ~ 1500であり、

$n_2$ は、0 ~ 1000である)で示される、直鎖状ポリオルガノシロキサン;

(B1)式(2) :

## 【化2】



(式中、

$\text{R}^5$ は、独立して、C<sub>1</sub> - C<sub>6</sub>アルキル基であり、

$\text{R}^6$ は、独立して、C<sub>6</sub> - C<sub>20</sub>アリール基であり、

$\text{R}^7$ は、独立して、C<sub>6</sub> - C<sub>20</sub>アリール基又はC<sub>1</sub> - C<sub>6</sub>アルキル基である)で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジエンシロキサン;

(B2)一分子中に、ケイ素原子に結合した水素原子を3個以上有する、ポリオルガノハイドロジエンシロキサン;

並びに

(C)白金系触媒;

を含み、

( $\text{H}_{\text{B}1} + \text{H}_{\text{B}2}$ ) / Vi<sub>A</sub>が0.4 ~ 2.5であり、ここで、Vi<sub>A</sub>は、(A)のアルケニル基のモル数であり、 $\text{H}_{\text{B}1}$ は、(B1)の水素原子のモル数であり、 $\text{H}_{\text{B}2}$ は、(B2)の水素原子のモル数である、硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

[2] (B2)が、SiO<sub>4</sub>/<sub>2</sub>単位及びR<sup>8</sup>SiO<sub>3</sub>/<sub>2</sub>単位(式中、R<sup>8</sup>は、C<sub>6</sub> - C<sub>20</sub>アリール基又はC<sub>1</sub> - C<sub>6</sub>アルキル基である)からなる群より選択される1以上の単位と、H(R<sup>9</sup>)<sub>2</sub>SiO<sub>1</sub>/<sub>2</sub>単位(式中、R<sup>9</sup>は、C<sub>6</sub> - C<sub>20</sub>アリール基又はC<sub>1</sub> - C<sub>6</sub>アルキル基である)とからなる、ポリオルガノハイドロジエンシロキサンである、[1]の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

[3]  $\text{H}_{\text{B}1} / (\text{H}_{\text{B}1} + \text{H}_{\text{B}2})$ が0.1 ~ 0.98である、[1]又は[2]の硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

[4]画像表示装置の画像表示部を有する基部と透光性の保護部との接着用である、[1] ~ [3]のいずれかの硬化性ポリオルガノシロキサン組成物。

[5] [1] ~ [4]のいずれかの硬化性ポリオルガノシロキサン組成物を用いて、画像表示装置の画像表示部を有する基部と透光性の保護部とを接着した画像表示装置。

## 【手続補正3】

## 【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 4

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

[ 硬化性ポリオルガノシロキサン組成物 ]

硬化性ポリオルガノシロキサン組成物(以下、単に「組成物」ともいう。)は、(A)前記式(1)で示される直鎖状ポリオルガノシロキサン；(B1)前記式(2)で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジエンシロキサン；(B2)一分子中に、ケイ素原子に結合した水素原子を3個以上有する、ポリオルガノハイドロジエンシロキサン；並びに(C)白金系触媒；を含み、 $(H_{B_1} + H_{B_2}) / V_{i_A}$ が0.4~2.5であり、ここで、 $V_{i_A}$ は、(A)のアルケニル基のモル数であり、 $H_{B_1}$ は、(B1)のケイ素原子に結合した水素原子のモル数であり、 $H_{B_2}$ は、(B2)のケイ素原子に結合した水素原子のモル数である。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 9

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

組成物は、アルケニル基含有ポリオルガノシロキサンが(A)のみからなることが好ましく、この場合、組成物は、(A)以外のアルケニル基含有ポリオルガノシロキサンを含まない。また、組成物は、ポリオルガノハイドロジエンシロキサンが(B1)及び(B2)のみからなることが好ましく、この場合、組成物は、(B1)及び(B2)以外のポリオルガノハイドロジエンシロキサンを含まない。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 6

【補正方法】 変更

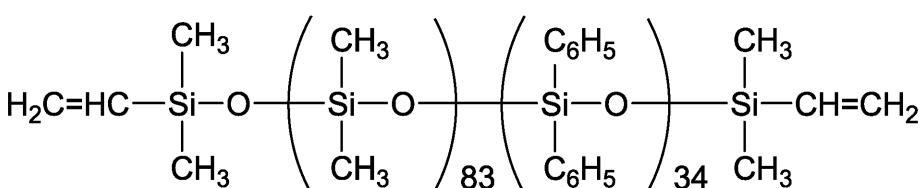
【補正の内容】

【0 0 4 6】

A1：下記の混合物。この混合物中、A1-1が87重量%であり、D1が13重量%である。

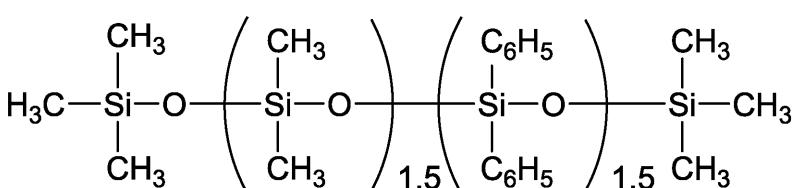
A1-1：下式で示される直鎖状ポリオルガノシロキサン( $M^V D_{8.3} D^{Ph_2}_{3.4} M^V$ )

【化9】



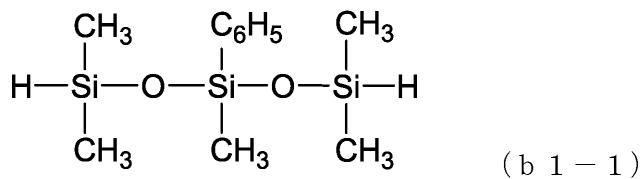
D1：下式で示される直鎖状ポリオルガノシロキサン( $M D_{1.5} D^{Ph_2}_{1.5} M$ )

【化10】



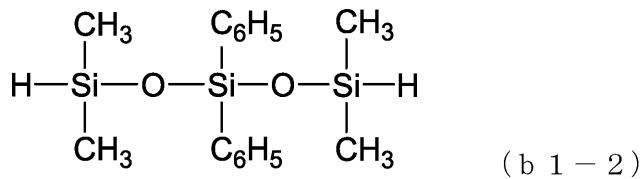
B 1 - 1 : 式 ( b 1 - 1 ) で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジエンシロキサン

【化 1 1】



B 1 - 2 : 式 ( b 1 - 2 ) で示される直鎖状ポリオルガノハイドロジエンシロキサン

【化 1 2】

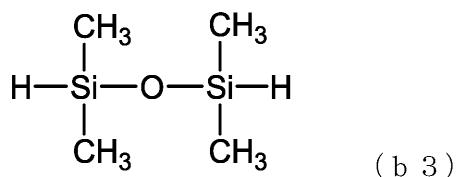


B 2 - 1 : 平均単位式が  $\text{M}^{\text{H}}_8 \text{Q}_4$  で示されるポリオルガノハイドロジエンシロキサン (有効水素量 1 重量 %)

B 2 - 2 : 平均単位式が  $\text{M}^{\text{H}}_6 \text{T}^{\text{P}} \text{h}_4$  で示されるポリオルガノハイドロジエンシロキサン (有効水素量 0 . 6 5 重量 %)

B 3 : 式 ( b 3 ) で示される直鎖状ポリメチルハイドロジエンシロキサン

【化 1 3】



C 1 : 塩化白金酸を 1 , 3 - ジビニル - 1 , 1 , 3 , 3 - テトラメチルジシロキサンとモル比 1 : 4 で加熱することによって得られ、白金含有量が 4 . 9 重量 % である錯体